

(1) 花き類 (草本植物) ・ 観葉植物  
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項	
			茎 腐 病	立 枯 病	う ど こ 病	灰 色 か び 病	菌 核 病	黒 斑 病	疫 病	株 腐 病	苗 立 枯 病 F	白 絹 病 R			
アフェットフロアブル	ペンチピラト <sup>®</sup>	7			◎	◎									【キク、ユリ、チューリップ、リンドウを除く】
アーリーセーフ サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド <sup>®</sup>				◎										注2)
オーソサイド水和剤80	キャブタン	M04	◎	◎								◎			【バラ、リンドウ、センニチコウ、コスモス、ヒマワリ、シネラリア、スイトピー、ミヤコワスレ、アンズリウム、斑入りアマドコロを除く】
オロンディスウルトラS カリグリーン	キチチアピ <sup>®</sup> ・フロン <sup>®</sup> ・マンジ <sup>®</sup> ・プロハ <sup>®</sup> ・ミト <sup>®</sup> 炭酸水素カリウム	49・40 NC			◎						◎				【キクを除く】
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ <sup>®</sup> ・チオファネートメチル	10・1				◎									【ヒマワリ、ゼラニウムを除く】
サンヨール	DBEDC	M01			◎	◎									【キク、バラ、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く】
ショウチノスケフロアブル	フルチアニル <sup>®</sup> ・メパ <sup>®</sup> ・ニピ <sup>®</sup> リム	U13・9			◎										
ダコニール1000	TPN	M05			◎										【バラ、キク、チューリップ、ユリ、リンドウを除く】
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	1					◎								【トルコギキョウを除く】
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	3			◎										【バラ、キクを除く】
バシタック水和剤75	メフロニル	7											花き		花き：【花き類登録】
バチスター水和剤	ハチルス <sup>®</sup> ・ズブ <sup>®</sup> チリス	BM02			◎										
バレード20フロアブル	ヒラジ <sup>®</sup> フルミト <sup>®</sup>	7			◎										【バラ、キク、リンドウ、トルコギキョウを除く】
ピリカット乳剤	ジフルメトリム	39			◎										【キク、宿根カスミソウ、リンドウを除く】
ファンタジスタ顆粒水和剤	ヒレパ <sup>®</sup> ・カルブ <sup>®</sup>	11				◎									【キク、トルコギキョウを除く】
フルピカフロアブル	メパ <sup>®</sup> ・ニピ <sup>®</sup> リム	9				◎									【バラ、スターチス、宿根カスミソウ、ユリ、リンドウを除く】
ホームイ水和剤	チウラム <sup>®</sup> ・チオファネートメチル	M03・1											花き	花き	花き：【花き類登録】
ポリオキシシナL水溶剤	ポリオキシシン複合体	19			◎	◎		◎							
ポリベリン水和剤	イミノタジン酢酸塩 <sup>®</sup> ・ポリオキシシン	M07・19				◎									【ストック、スターチス、チューリップ、バラ、クルクマ、キクを除く】
モレスタン水和剤	キノキサリン系	M10			◎										【カーネーションを除く】
モンカットフロアブル40	フルトラニル	7												◎	
リゾレックス水和剤	トルクロホスメチル	14	◎	◎							◎			◎	
リゾレックス粉剤	トルクロホスメチル	14		◎											

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 F: *Fusarium* , R: *Rhizoctonia*

注2) ストピ<sup>®</sup>リン系薬剤およびTPN剤とその混合剤との混用および近接散布を避ける。ストピ<sup>®</sup>リン系薬剤を含む農薬を散布した後に本剤を使用する際は2週間以上間隔をあける。アタマ<sup>®</sup>リド<sup>®</sup>剤、トリフルミゾール剤、ペニピ<sup>®</sup>リム剤、キャブタン剤と混用しない。





農 薬 名	成 分 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名													注 意 事 項	
			ハ モ グ リ バ エ 類	ハ マ キ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	オ タ バ コ ガ 類	ア ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	カ メ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ 類	ア オ ム シ 類	バ ツ タ 類		ネ キ リ ム シ 類
ヨ ー バ ル フ ロ ア ブ ル	テトラニプロール	28			ハ	◎											【キク、トルコギキョウを除く】 ハ：【ハスモンヨトウに適用】
ロ ム ダ ン フ ロ ア ブ ル	テアフェノジド	18			ハ												【キクを除く】 ハ：【ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ に適用】
ロ デ イ ー 乳 剤	フェンプロパトリン	3A					◎			◎							

注1) ストロビリン系薬剤およびTPN剤とその混合剤との混用および近接散布を避ける。ストロビリン系薬剤を含む農薬を散布した後に本剤を使用する際は2週間以上間隔をあける。アセチリド剤、トリフルメチル剤、ベニル剤、キャプタン剤と混用しない。

(1) 花き類(草本植物)・観葉植物  
ウ 土壤消毒剤

農薬名	成分名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名														注意事項	
			ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	セ ン チ ユ ウ 類	青 枯 病	萎 凋 病 F	根 頭 が ん し ゆ 病	白 絹 病	立 枯 病 F R	株 腐 病 R	半 身 萎 凋 病	首 腐 病	乾 腐 病 F	腐 敗 病 F	苗 立 枯 病 F R		萎 黄 病 F
ガスタード微粒剤 バースアミド微粒剤	タゾメット	I:8F		◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎	
キルパ一	カーバムナトリウム塩	I:8F	◎	◎			◎			◎	◎			◎	◎	◎	◎	
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロール	カロル°クリン	I:8B				◎	◎			◎				◎	◎		◎	
クロピクフロ一	カロル°クリン	I:8B				◎				◎				◎	◎		◎	【キクを除く】
ソイリ一ン	カロル°クリン・D-D	I:8B・8A	◎	◎														【ストック, チューリップ, キク, カーネーション, トル コギキョウを除く】
ダブルストッパ一	カロル°クリン・D-D	I:8B・8A	◎	◎			◎			◎				◎	◎		◎	【キクを除く】
ディ・トラペックス油剤	メチルソチオンアネト・D-D	I:8F・8A			◎		◎						◎	◎	◎	◎	◎	【カーネーション, キクを除く】

注) 萎凋病, 立枯病, 株腐病, 乾腐病, 腐敗病, 苗立枯病, 萎黄病の対象病原菌の表記 F:Fusarium, R:Rhizoctonia

(1) 花き類（草本植物）・観葉植物  
 エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項 <及び改訂理由>
キルパー	カーバムナトリウム塩	8F	前作のいちごのネグサセンチュウ蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作のきゅうりのコジラミ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのつる枯病蔓延防止	
			前作のきゅうりのネブタ根腐病蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネブタセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマトのハサゲニ蔓延防止	
			前作のトマト又はミニトマトのコジラミ類蔓延防止	
			前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止	
			前作のなすのツリム立枯病の蔓延防止	
			前作のにんにくのイモクサセンチュウ蔓延防止	
			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロバネ科ノコバエ類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のツリム類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	

## 花きの部

### (1) 花き共通

#### ア 環境と調和した防除の基本的考え方

切り花や鉢物生産では品目・品種が多様化し、周年栽培体系が定着している。さらに、品質が重要視されることから農薬を多用する場合が多く、環境に対する負荷や使用者に対する安全性が問われている。

これらの背景を踏まえ、今後は化学農薬のみに依存しない防除体系を構築していく必要がある。そのためには、発生予察情報を活用し、病害虫の発生消長を捉えた的確な防除を実施し、生物的防除法や物理的防除法等、環境に配慮した多様な防除技術を活用して化学農薬の節減を図るとともに、使用者に対する安全対策を講じていくことが肝要である。

そこで、次の事項について重点的な推進を行う。

防除にあたっては、ほ場周辺の環境整備や防虫網等による害虫の侵入防止対策を実施し、環境負荷の小さいB T剤やI G R剤等を選定するように努める。

#### (ア) 機械的除草技術

機械的手法による除草を行う。

#### (イ) 生物的農薬利用技術

拮抗微生物等を利用した防除体系の導入を考慮する。

B T剤は桑園や桑室の近くでは使用しない。

#### (ウ) 対抗植物利用技術

線虫の主な対抗植物としては、マリーゴールド、ラッカセイ等があるが、線虫の種類に合わせて対抗植物を選定する。

#### (エ) 被覆栽培技術

防虫網による害虫の侵入防止、紫外線除去フィルム被覆によるアザミウマ等の侵入を防止する。

#### (オ) フェロモン剤利用技術

フェロモントラップによる発生消長の調査による防除適期の予測や性フェロモン剤の設置による交信攪乱を行う。

#### (カ) マルチ栽培技術

光反射マルチの使用によるアザミウマ、アブラムシ等を忌避する。

#### (キ) 黄色蛍光灯利用技術

黄色蛍光灯による鱗翅目害虫の侵入を防止する。

#### (ク) その他環境にやさしい防除技術

作式改善やハウス管理など耕種的防除を実践する。

#### イ 化学的防除法の共通的な注意事項

(ア) 合成ピレスロイド剤等や蚕毒の強い剤は、桑園や蚕室の近くでは使用しない。

(イ) 合成ピレスロイド剤は、魚毒の恐れのあるところでは使用しない。

## ウ 施設における省力防除法

(ア) くん煙剤, 蒸散剤, くん蒸剤

a 自燃式くん煙剤 (点火芯・点火紙などに着火して, 薬剤自体が燃える)

b 蒸散式くん煙剤 (蒸散器で使用する)

※ 使用上の注意事項

- (1) 夕方気温が上がらなくなつてからハウスを密閉して処理し, 翌朝開放する。
- (2) くん煙中は入室しない。また翌日も十分換気した後に入室する。
- (3) 通常のハウスは, 高さ 2 m としてハウス容積を算出し, 薬量を定める。
- (4) くん煙剤は薬剤散布の省力化あるいはハウス内が多湿になる場合などで利用価値が高いが, 効果不足となる場合もあるので, 薬剤散布と組み合わせて利用する。
- (5) 薬剤により, 使用方法・量などが異なるので, 使用方法や注意事項をよく読んで使用する。